



野の花  
よご

文写真 矢加部 和幸

コミカンソウ

(小蜜柑草)



野の花  
よご

文写真 矢加部 和幸

ミヤマミズ

(深山みず)

軟質な葉、長円形の大きい葉はいかにもみずみずしい。湿った薄暗い林床などで繁茂している様子が名前の由来となった。葉のつけ根に咲く花は小さく地味。雌雄同株で、雌花、雄花はそれぞれ分かれて花穂を作る。雄花は花被片が4裂、雄しべ4本。雌花は花被片3枚、中央に雌しべがある。

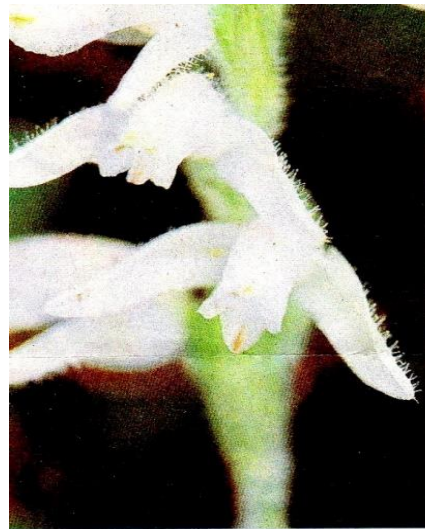
【イラクサ科 花2ミ 草丈40〜80ミ 花期7〜10月 分布・関東以西、四国、九州】

2015.11.5

ミニ・ネムノキのような枝を裏返すと、葉の付け根ごとに小さな花が行儀よく並ぶ。枝の上部が雄花で、下部が雌花だ。6枚の花被はわずかに赤みを帯び、愛らしい。マメ科の羽状複葉に見えるが、小さな長円形の葉が互生した枝で、睡眠運動をする。2・5ミほどの果実をミカンに見立てた名前。

【コミカンソウ科 花1・5ミ 草丈5〜10ミ 花期7〜10月 分布・本州、四国、九州】

2015.11.4



野の花  
よご

文写真 矢加部 和幸

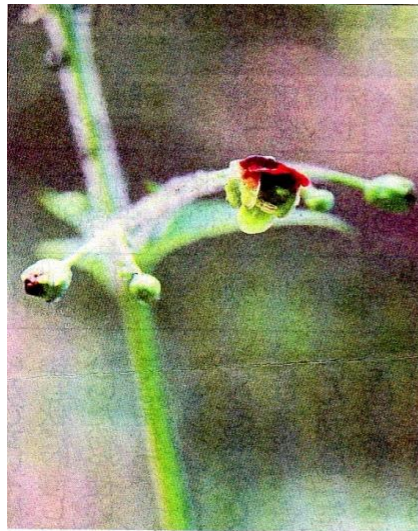
ミヤマウスラ

(深山鶉)

まつすぐな花茎にほんのわずかに紅を帯びた白い花が並んで咲く。外面に綿毛を密生した独特の花だ。同じ方向を向くようにねじれているのも面白い。一つ一つの花は、唇弁の両側に側弁が広がり、飛ぶ鳥を連想させる。変化に富む葉の白斑からウスラの羽の模様を連想した名前。江戸時代には観葉目的で盛んに栽培されたという。

【ラン科 花1ミ 草丈20ミ 花期8〜9月 分布・全国】

2015.11.7



野の花  
よご

文写真 矢加部 和幸

ヒナノウスツボ

(雛の白壺)

丸くふくらんだつぼ形の小さな唇形花が横向きに開く。上唇は2裂して赤みのある暗紫色。下唇は3裂し、緑色。そんな花がまばらに穂になって咲き、わずかな風にも揺れる。そのユニークな姿は印象的だ。白壺は花の形、雛は小さくてかわいらしいの意味という。

【ゴマンハグサ科 花7〜8ミ 草丈0・4〜1ミ 花期8〜9月 分布・関東以西、四国、九州】

2015.11.6





# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

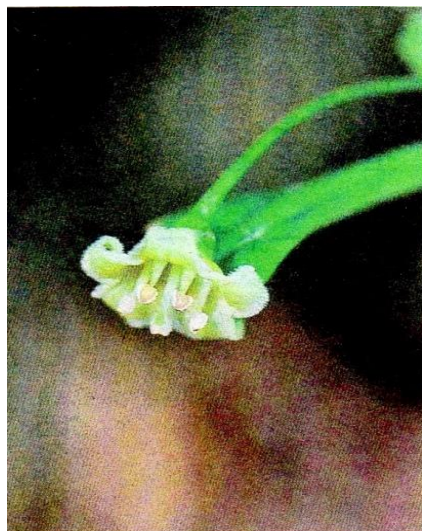
イボクサ

(疣草)

淡紅色を帯びた3枚の花弁は、開花したばかりのようにみずみずしい。その中央に3本の淡紫色の雄しべと小さな3本の仮雄しべ。一日でしぼむかわい花からこの名は思いもよらない。葉の汁をつけるとイボがとれるからというが不明。茎は湿地をはい、所々立ち上がって花をつける。

【ツユクサ科 花1・3センチ  
草丈20〜30センチ 花期8〜10月  
分布・本州、四国、九州】

2015.11.10



# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

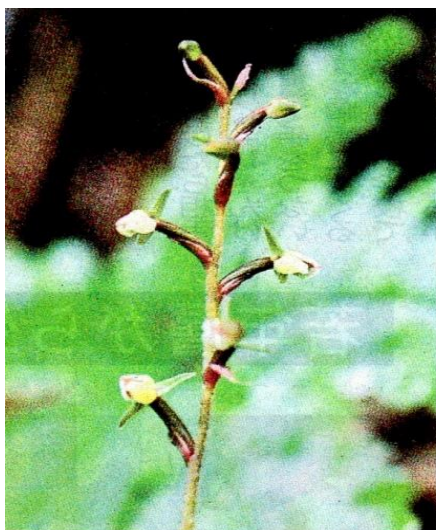
ハダカホオズキ

(裸酸漿)

卵形の葉の陰にひっそりと淡い黄白色の花をつける。花は短い釣り鐘状で先端は5裂し、くると反り返る。花は小さくて地味だが、よく見ると案外かわいい。ホオズキは実になるとがく片が大きくなって果実を包み込んで独特の格好となるが、ハダカホオズキは名の通り真っ赤な果実がむき出しのまま。

【ナス科 花5〜8センチ 草丈30〜50センチ 花期8〜9月 分布  
・本州、四国、九州】

2015.11.11



# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

カゲロウラン

(蜉蝣蘭)

花がカゲロウの一種に似るからというが、薄暗い常緑樹の中では、消え入りそうな小さなラン。横に広がった左右のがく片は緑色を帯び、上のがく片は茶色だ。中央には白色のふつくりとした唇弁がある。凝ったつくりはラン科らしい。そんな花が花茎に、やや傾き加減に並んで咲き、今にも飛び立ちそうだ。

【花8センチ 草丈20センチ 花期8〜9月 分布・関東以南四国、九州】

2015.11.12



# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

コバノコメグサ

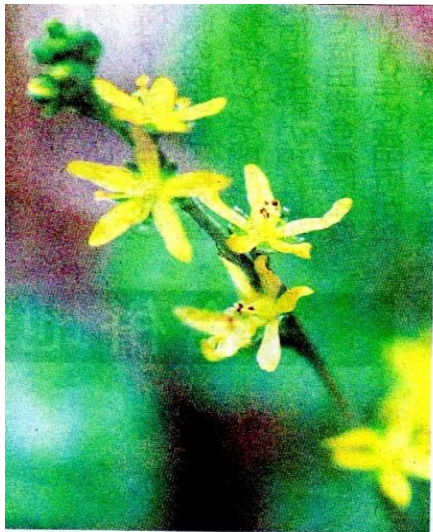
(小葉の小米草)

円形の葉が密にある茎の頂に咲く、小さな唇形花だ。花弁は真っ白で、3裂した下唇の中央に鮮やかな黄色の斑点、上唇には濃い紫色の模様がある。唇形の花は多いが愛らしさは抜きません。名前に「小米」のつく植物は、いずれも小さくてかわいい。関東北部、秩父山地、八ヶ岳、南アルプスの高山帯の乾いた草地に生える。

【ハマウツボ科 花8〜11センチ 草丈3〜10センチ 花期8〜9月】

2015.11.13





## 花のよみ 野ご

文写真 矢加部 和幸

ヒメキンミスヒキ

(姫金水引)

名の通りキンミスヒキを一回り小さくした、かわいらしい花だ。5枚の花弁は細く、反り返るように開き、弱々しい。花や葉、草丈もミニサイズ、この仲間の果実にはかき状のとげがあつて服などに引つ付くが、とげも小さく数が少ない。山地の谷沿いなどにひっそりと咲き、花穂もまぼろしなので目立たない。

【バラ科 花5ミ、草丈40ミ、80ミ】  
花期8~9月 分布・全国

2015.11.14



## 花のよみ 野ご

文写真 矢加部 和幸

カゴノキ

(鹿子の木)

葉の付け根に淡い黄色の花が3~4個かたまつて咲くが、葉の陰になつて目立たない。雌雄異株。花被は6裂し、雄花には花被から長く突き出した9本の雄しべ、雌花には雌しべと退化した雄しべがある。樹高が20ミになる常緑樹だが、名の由来の鹿の子模様が木肌を埋め尽くし、独特の雰囲気だ。

【クスノキ科 花5ミ、花期8~9月 分布・関東以南、四国、九州】

2015.11.15



## 花のよみ 野ご

文写真 矢加部 和幸

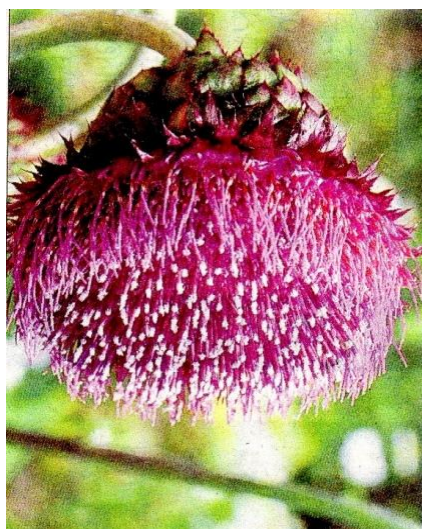
アゼトウガラシ

(畦唐辛子)

細長い葉の付け根から長い花柄がすつと伸び、その先端に1個ずつ淡い紅紫色の唇形花をつける。水を落とした田んぼなどに多く、大きくなったイネの根元であまり目立たないが、下唇の黄色の斑紋が印象的な、静かなたたずまいの愛らしい花だ。名前は果実が小さな唐辛子に見えることによる。

【アゼナ科 花0.6~1ミ、草丈10~20ミ、花期8~10月 分布・本州、四国、九州】

2015.11.16



## 花のよみ 野ご

文写真 矢加部 和幸

フジアザミ

(富士薊)

富士山のガレ場に多いことからついた名前だが、姿も日本一にふさわしい。根元に広がる大きな葉、その中央から花茎を立て先端に巨大な頭花が下向きに花開く。紅紫色の花は鋭いトゲのある総苞(ほう)に包まれ、何人たりとも寄せ付けぬという風情だ。荒地に最初に生えるパイオニアでもある。

【キク科 頭花6.5~10ミ、草丈0.7~1ミ、花期8~10月 分布・関東、中部地方】

2015.11.17





# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

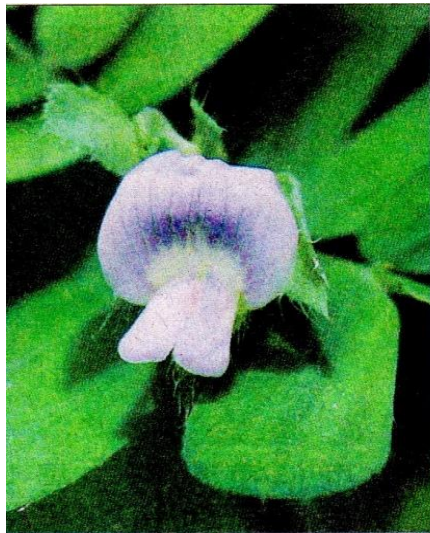
シロネ

(白根)

【シソ科 花5<sup>ミ</sup> 草丈1<sup>尺</sup>  
花期8~10月 分布・全国

足が深く沈みそうなジュークジュークした湿地にすつと立つた、やや太めの茎。対生した2枚の葉の付け根に小さな白い花が茎を取り巻いてびっしり咲く。下唇がやや大きな唇形花だ。一つ一つの花は地味だが、節の間が短いので全体として華やいで見える。葉や茎の緑と白い花のコントラストも美しい。名前は太く白い地下茎による。

2015.11.18



# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

シバネム

(芝合歓)

【マメ科 花6<sup>ミ</sup> 草丈15<sup>センチ</sup>  
花期9~10月 分布・近畿以西、四国、九州

ごく薄い青紫色の丸みを帯びた蝶形花は弱々しげ。背後に立ち上がった旗弁が大きく、なかなかユニークな形だ。毛がまばらに生えた羽状複葉の葉も軟弱で、触るとオシギソウのように閉じてしまう。草原の草むらに隠れるようにはつか、ほかの植物にもたれかかっており、目につきにくい。

2015.11.19



# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

ツリガネニンジン

(釣鐘人參)

【キキョウ科 花1.5~2<sup>センチ</sup>  
草丈40~100<sup>センチ</sup> 花期8~10月

淡い青紫色の釣鐘状の小さな花がすつと伸びた花茎に、数段鈴なりに咲く。高原を吹く風に今にも鐘の音が聞こえそう。下向きに開き、5裂した花弁の先端がくると反る。中から雌しべが長く突き出すのも愛らしい。全国の山野にあるが、大きさ、葉の形などが変化に富み多くの変種などに分けられている。

2015.11.20



# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

タカネハンシヨウヅル

(高嶺半鐘蔓)

【キンポウゲ科 花1.5~2<sup>センチ</sup>  
つる植物 花期8~10月  
分布・近畿以西、四国、九州

半鐘の名の通り淡紅色の釣鐘状の花。4枚花弁のように見えるが花弁は無く、がく片がわずかに開き、中から密生した雄しべが突き出す。がく片の先端がくると反って愛らしい。低山の林縁で、他の植物などに絡みつき多数の花をつける。初夏に咲くハンシヨウヅルに似るが、秋に花開く。

2015.11.21



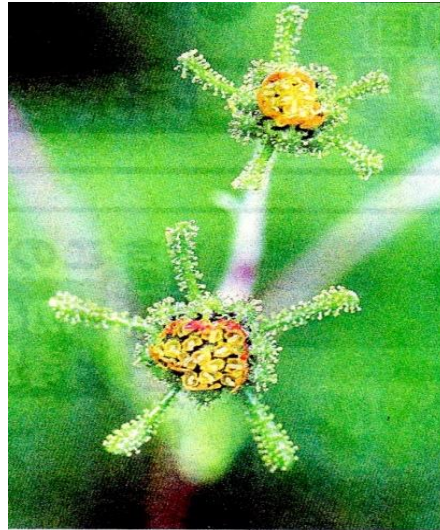


## 花のよみ 野ご

文写真 矢加部 和幸

アキノキリンソウ

(秋の麒麟草)



## 花のよみ 野ご

文写真 矢加部 和幸

メナモミ

(雌粘美)

一見ヒトデのようだが、中央の黄色の小花が集まった頭花は思いがけず大変に愛らしい。周辺に舌状花、中に筒状花。舌状花の先端が3裂する。ヒトデの腕に見えるのは5個の総苞片。腺毛が密生し、いかにもねばねばしている。粘美の由来だ。よく似たオナモミに比してメナモミとなった。

【キク科 頭花2枚 草丈60  
〜120cm 花期9〜10月  
分布・全国】

2015.11.23

抜けるような青空の高原で、その黄金色の花はいっそう鮮やかだ。小さな花が集まった頭花が枝先や頂にびっしり咲き、深い秋を感じさせる。別名「泡立草」。あふれるように咲いた花を、酒が発酵する時の泡に見立てたもので、意味不明の「麒麟」より分かりやすい。英名は「ゴールデンロッド」。

【キク科 頭花1・3枚 草丈30〜80cm 花期8〜11月  
分布・全国】

2015.11.22



## 花のよみ 野ご

文写真 矢加部 和幸

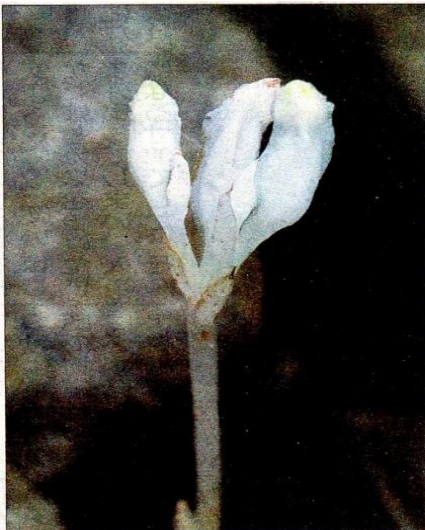
ヒゴシオン

(肥後紫苑)

美しい野菊であるシオンの頭花より一回り大きく、見応えは十分だ。咲き乱れるさまはまさにお花畑。頭花の周囲の舌状花は青紫色、芯の筒状花は真っ黄色で、青空によく映える。日本では熊本県阿蘇の湿地にだけ生えるが、朝鮮半島や中国東北部に広く分布し、日本列島が大陸と陸続きであったことを教えてくれる遺存植物の一つ。

【キク科 頭花4枚 草丈45〜85cm 花期8〜10月】

2015.11.25



## 花のよみ 野ご

文写真 矢加部 和幸

シロシャクジヨウ

(白錫杖)

落ち葉の間から枝分かれせず伸びた真っ白な茎。その頂に、先端がわずかに黄色みを帯びた小さな白い花を数個つける。6個の花被はわずかに開くだけ。葉緑素を持たない腐生植物だが、その弱々しい姿はいかにも日陰にひっそり生える植物であることとを体現しているよう。近畿以西や四国、九州にあるが珍しい。

【ヒナノシャクジヨウ科 花8〜10cm 草丈5〜15cm 花期8〜10月】

2015.11.24

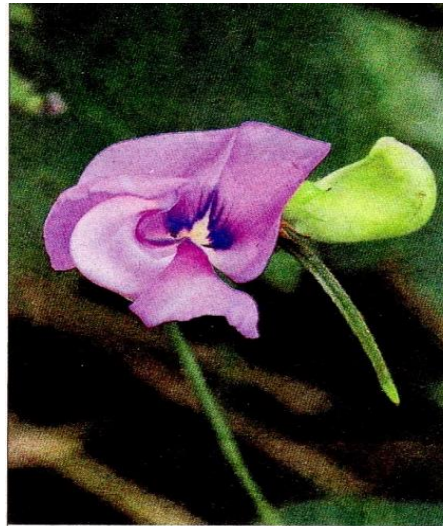


# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

アカササゲ

(赤大角豆)



20<sup>センチ</sup>ほどもある花茎の先端に  
りと咲く赤っぽい紫色の花は  
意外に大きく、感激もの。花の  
中央は濃い黄色とブルー。先端  
がくちばしのような変わった竜骨  
弁がくるりと曲がって鎮座す  
る。花弁の色の鮮やかなコント  
ラストと、独特な姿は忘れがた  
く印象的だ。かつては九州の里  
山では珍しくなかったが、開発  
などで今や絶滅危惧種。

【マメ科 花3<sup>センチ</sup> つる植物  
花期9〜10月】

2015.11.27

# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

ミスアオイ

(水葵)



透明感のある青紫色の花は端  
正で水の精のよう。花被は6枚。  
がく片に相当する3枚の外花被  
より、内花被3枚が幅広い。独  
特なのは6本の雄しべ。1個は  
長く、葯は青紫色。ほかは小さ  
く葯は黄色。全国の沼などでほ  
びこる熱帯アメリカ産のホテイ  
アオイに似るが、葉柄のふくら  
みがない。

【ミスアオイ科 花2.5〜  
3<sup>センチ</sup> 草丈20〜40<sup>センチ</sup> 花期9〜  
10月 分布・全国の水湿地】

2015.11.26

# 花の野 よご

文写真 矢加部 和幸

ベニバナボロギク

(紅花檻樓菊)



かわいそうな名前だが、まば  
らな綿毛(下を向いた小さな花、  
緑白色の花茎など、いかにもぼ  
ろをまとったように見える。頭  
花はすべて筒状花で、花弁の先  
端が朱赤色に染まり、わずかに  
華やぐ。アフリカ原産の帰化植  
物で、戦後、全国に急速に広が  
った。山林の伐採地や山火事の  
後に突然、大群落を作って驚か  
されることがある。

【キク科 頭花2<sup>センチ</sup> 草丈30  
〜70<sup>センチ</sup> 花期8〜10月】

2015.11.29